

肺（大腸）の病証と治療

神奈川県・平馬医院 平馬直樹

1. 肺の生理機能

肺の生理機能を表1に示す。肺は呼吸運動により、天の清気を体内に取り込み、不要の濁気を排出し、全身に気をめぐらす原動力となっている。また、津液の輸送も呼吸運動が原動力の役目を果たすとされる。

表1 肺の生理機能

- 1) 気を主る
- 2) 宣散と肅降を主る
- 3) 水道を通調する
- 4) 百脈を朝め、治節を主る

1) の気を主るは、『黄帝内経素問』六節蔵象論に「肺者気之本」、五蔵生成論には「諸気者、皆属於肺」とあるように肺は全身の気のおおもとである。肺は呼吸を主り新陳代謝（吐故納新）にあずかり、また全身の気をコントロールする。肺の絶え間ない呼吸運動は、全身の気の運行の動力源になっている。

2) の宣散と肅降について。宣散は、宣布・発散の意。肺気の向上向外運動。肅降は清肅・下降の意。また肅は、縮（肺の収縮）にも通ずる。肺気の向下向内運動。

宣散作用の内容は、肺の気化作用によって体内の濁気を排出し、脾の転輸する津液と水穀の精微物質を全身に散布し、（体表の）皮毛まで送る。また、衛気を宣発し、腠理の開合を調節し、発汗を調節する。

肅降作用の内容は、天の清気を吸入する。取り込んだ清気と、脾から送られた津液と水穀の精微物質を（肺より下に位置し、体の内部にある）臓腑に散布する。また、肅にはきれいさっぱりかたづけるの意があり、肅降には肺と気道を清浄に保つことも含まれる。

3) の水道の通調は、体液の輸送と分布をコントロールする働き。肺の宣散と肅降の運動によって、体内の水液の輸布、運行、排泄を調節する。「肺為水之上源」という言葉がある。

4) の百脈を朝めるの「朝」は聚會の意。すなわち、全身の血液は、経脈を通つ

て肺に集まる。全身をめぐる経気と血は手の太陰肺経に還流する。治節は治理(管理), 調節の意。肺は, 気・血・津液の代謝を管理, 調節する。

2. 肺に属する組織・器官, 液, 情志

表2に肺に属する組織・器官, 液, 情志を示す。肺と表裏をなす腑は大腸である。大腸の生理機能と, 肺との関係は次項に示す。体表面の体毛, 発汗の状態, 鼻の症候, 涕の状態は, 肺の状態を外から観察するポイントである。憂の精神状態は, 肺気の不足状態を示す。

表2 肺に属する組織・器官、液、情志

- 1) 腑にあつては大腸と表裏をなす
- 2) 皮に合し、その華は毛にある(皮毛を主る)
腠理の開合を調節する
体表面の肺衛は、外邪の侵入を防ぐ
- 3) 鼻に開竅する
- 4) 液にあつては涕となす
- 5) 志にあつては憂となす

3. 大腸の生理機能

表3に肺と表裏をなす腑, 大腸の生理機能を示す。大腸は脾と胃によって運化, 降濁された飲食物の残渣(糟粕)を肛門まで送下し, 排泄する。手太陰肺経と手陽明大腸経は, 表裏をなし, 大腸の生理機能は, 肺の肅降作用に依存する。ただし, 大腸の働きは同じ陽明経である胃(足陽明胃経)の作用にも依存している。

表3 大腸の生理機能

伝導を主り、糟粕を排泄する
「大腸者、伝道之官、変化出焉」
(素問・靈蘭秘典論)

大腸の生理機能は、肺の肅降作用に
依存する

4. 肺と大腸の症候

肺病によく見られる症状は咳嗽，気喘（呼吸困難），胸痛，咯血，息切れ，鼻塞，鼻汁，カゼをひきやすい，汗をかきやすいなど。「肺為嬌臟」（嬌は，か弱い）という言葉があり，肺は最も外邪にさらされやすく，抵抗力も弱いとされる。

大腸病によく見られる症状は便秘，泄瀉，下痢，大便失禁などの便通異常である。

5. 肺と大腸の病証

肺と大腸の主要な病証を表4に挙げ，順次解説する。

肺の虚証は気虚と陰虚。肺は外邪の侵襲を受けやすく，3)～8)の各種の実証が見られる。大腸の病証は，湿熱による下痢と，伝導機能の失調により腑気不通を来す便秘が主である。

表4 肺と大腸の病証

- | | |
|----------|-----------|
| 1) 肺気虚証 | 6) 熱邪壅肺証 |
| 2) 肺陰虚証 | 7) 痰湿阻肺証 |
| 3) 風寒束肺証 | 8) 燥邪犯肺証 |
| 4) 寒邪客肺証 | 9) 大腸湿熱証 |
| 5) 風熱犯肺証 | 10) 伝導失司証 |

1) 肺気虚証

【病態】 肺主気の機能が不足する状態。全身的な気虚による生化新生の不足や長期間の咳や喘などによる肺気の消耗などにより，肺気の宣散・粛降の作用が衰える。また，体表面を衛る衛気の機能も不足する。

【症候】 呼吸に力がなく息苦しい。体を動かすと息切れがひどくなる。力のない咳，うすい痰。声が小さく低い。自汗，悪風，感冒を繰り返す。顔色は白く艶がない，全身倦怠。舌質淡苔白，脈無力。

【治法】 補益肺気

【方剂】 ① 補肺湯（『永類鈴方』）

黄耆・人参・五味子・熟地黄・紫苑・桑白皮

補肺気の黄耆・人参と補腎納気の熟地黄・五味子を合わせて，肺気虚，腎不納気の長引く咳嗽，呼吸機能低下に対応，さらに止咳平喘の紫苑と桑白皮を加えて呼吸を整える配合となっている。

② 六君子湯（『婦人良方』）

人参・白朮・茯苓・炙甘草・半夏・陳皮

補気の基本方剤四君子湯に化痰の二陳湯を合わせ、肺気虚に痰飲を伴う証に幅広く対応できる。ふだんから痰のからむ慢性の呼吸器疾患の緩解期に好適。

③ 玉屏風散（『丹溪心方』）

黄耆・白朮・防風

黄耆は補肺気とともに体表の衛気を強化し、外邪の侵襲に抵抗する。白朮も補肺気で黄耆を補助。防風も肺気を宣発して風邪の進入を防衛する。合わせて肺衛の虚に用いる。カゼを引きやすい、カゼがこじれたり長引きやすいなどの予防に用いる。アレルギー性鼻炎や花粉症の緩解期にも応用される。

2) 肺陰虚証

【病態】 肺の津液不足と陰虚火旺を指す。熱病が長びいたり、長期間の咳嗽などにより肺陰が傷られて生ずる。肺とその属する器官の気道や鼻竇、皮毛などが潤いを失い乾燥する。このような「燥証」と虚熱内生あるいは火旺の症候が出現する。

【症候】 咳嗽。無痰か、または痰が少なく粘稠なのが特徴。口・咽・鼻粘膜が乾く、午後の潮熱、手足のほてり、盗汗。痰に血がまじる、声がかすれる。舌質紅苔少乾燥、脈細数。

【治法】 養陰潤肺，滋陰降火

【方剤】 百合固金湯（『医方集解』）

生地黄・熟地黄・麦門冬・百合・白芍・当帰・貝母・玄参・桔梗・生甘草

百合と麦門冬は肺陰を滋補し、潤肺止咳に働く、生地黄と熟地黄は滋腎清熱し、玄参の滋陰清熱がこれを補助する。貝母と桔梗は清肺化痰止咳の効能、白芍と当帰は養血和陰で、肺の潤燥を助ける。生甘草は桔梗の清肺を助けるとともに諸薬を調和する。合わせて肺腎の陰を滋補し、清熱潤肺、化痰止咳の効能を発揮する。

3) 風寒束肺証

【病態】 咳嗽を主証として、風寒表証を伴うもの。風寒の邪を感受して、外感表証が残っているが、同時に邪が肺衛を侵して、肺気の宣散機能を傷害するので、肺気不宣による咳嗽が主症状となる。

【症候】 咳嗽、痰は希薄で色は白。鼻塞、流涕。悪寒や発熱、頭痛、身体痛を伴うことがあり、無汗。舌苔白、脈緊。感冒後に咳嗽が長引くもの。

【治法】 宣肺解表

【方剤】 華蓋散（『和剂局方』）

麻黄・紫蘇子・桑白皮・杏仁・茯苓・陳皮・炙甘草

主薬の麻黄は肺気を宣発して風寒の邪を発散する。麻黄と杏仁の配合は宣肺平喘の基本ユニットである。紫蘇子と杏仁は降気化痰止咳、桑白皮は平喘止咳、茯

苓と陳皮は化痰を補助する。合わせて風寒の邪を宣発し、肺気の宣散・肅降を調え、平喘化痰止咳する。

4) 寒邪客肺証

[病態] 客は邪が侵入して留まること。寒邪が肺に入り込み、肺の宣肅運動（主として宣散機能）を傷害する。風寒束肺証と較べると、病位は肺衛から肺臟に移っているので表証（悪寒発熱）は見られない。

[症候] 咳嗽（しばしば、ひどい咳き込み発作）、气喘。痰は希薄で色は白。手足が冷え、寒がる。舌質淡苔白、脈遅緩。感冒から気管支炎を併発したり、咳き込みが残るもの。

[治法] 宣肺散寒

[方剂] 杏蘇散（『温病条弁』）

紫蘇葉・前胡・桔梗・杏仁・半夏・茯苓・陳皮・枳殼・甘草・大棗・生姜

辛温の薬性の紫蘇葉で寒邪を宣発し、前胡と杏仁で肺気の宣肅を調える。桔梗と枳殼の組み合わせも桔梗が肺気を昇発し、枳殼が肺気を降下し、一昇一降の働きで肺気を調える。半夏、茯苓、陳皮は化痰止咳。甘草、大棗、生姜で營衛を温通する。

5) 風熱犯肺証

[病態] 風熱の邪が肺を侵し、肺の宣散作用と肅降作用をともに冒す。咳嗽を主症状として、風熱表証を伴う。風熱は陽邪であるので、痰は黄色で粘稠となる。

[症候] 咳嗽、痰は黄色で粘稠。鼻塞、黄緑色の濃い鼻汁。悪風、発熱を伴うことがあり、口が渇き咽が痛い。舌尖紅苔薄黄、脈浮数。

[治法] 疏風清熱、宣肺止咳

[方剂] 桑菊飲（『温病条弁』）

桑葉・菊花・杏仁・連翹・薄荷・桔梗・芦根・生甘草

桑葉は風熱を疏散し、清肺宣肺する。本方の主薬である。菊花も風熱を疏散し、清肺の効もあり桑葉を助ける。桔梗と杏仁は肺気の宣肅を調える。さらに連翹の清熱解毒、薄荷の疏散風熱、芦根の清熱生津で補助する。合わせて風熱を疏散し、清肺利咽止咳の効を発揮する。

6) 熱邪壅肺証

[病態] 肺衛を侵した熱邪が熾盛になって、肺臟に壅塞する。風熱の邪が裏に入るか、風寒の邪が肺に入り化熱して生ずる。邪熱が肺の宣散と清肅作用を傷害し、咳嗽などの肺気失調の症状と裏熱証が表れる。痰と熱が結合して痰熱の邪となると肺癰を引き起こしやすい

[症候] 咳嗽、痰は黄色で粘稠、ときに腥臭。气喘息粗、口渴、煩躁不安。鼻出血や咯血。肺癰になれば、壮熱、胸痛、腥臭のある膿痰を咯出。大便乾結、

小便短赤。

舌質紅苔黃，脈滑數。肺炎や肺化膿症の急性期。

【治法】 清肺泄熱

【方劑】 麻杏甘石湯（『傷寒論』）加味

麻黃・杏仁・甘草・石膏・加・黃芩・金銀花・連翹・桑白皮

麻黄と杏仁で宣肺平喘。清肺潤燥の石膏と清肺瀉火の黄芩で肺熱を清する。黄色い膿痰が見られれば，清熱解毒の金銀花と連翹で化膿を防ぎ，清肺止咳の桑白皮で泄熱を強化する。

7) 痰湿阻肺証

【病態】 肺は「貯痰之器」といわれ，痰飲の邪に侵されやすい。寒湿が肺を侵すか，または脾（生痰之源）の虚により生じた内湿が肺に貯留して，肺の宣肅機能を傷害すると，肺は全身に津液を輸布できなくなり（通調水道機能の失調），水液が肺に停滞して痰湿となる。咯痰の量が多いのが特徴。

【症候】 咳嗽，痰が多く，やや粘性だが色は白く咯出しやすい。胸苦しく，気喘や痰鳴を伴うことがある。舌質淡苔白膩，脈滑。

【治法】 宣肺化痰

【方劑】 二陳湯（『和剂局方』） 合三子養親湯（『韓氏医通』）

半夏・陳皮・茯苓・紫蘇子・萊菔子・白芥子・炙甘草・生姜

半夏は辛温で燥性が強く，燥湿化痰・降逆止嘔の効能があり，陳皮は理気燥湿で，半夏を助けて気をめぐらせて痰を消除する。茯苓は健脾滲湿で脾の運化機能を回復して湿を除く。この3味が化痰の基本ユニットである。さらに降気止咳の紫蘇子，宣肺化痰の萊菔子，温肺消痰の白芥子を配して化痰止咳の効能を強化している。

8) 燥邪犯肺証

【病態】 秋季の感冒から起こることが多い。晩秋は燥邪が盛んな時令である。燥邪が肺衛さらに肺を侵せば，肺の津液が傷害され，肺が滋潤を失い，清肅機能も減退する。乾燥少津の症候が出現する。

【症候】 乾咳無痰，あるいは痰が少なく粘って咯出しにくい。唇・舌・咽・鼻が乾く。咳をすると胸に響いて痛む。ときに咯血。悪寒，発熱，頭痛，鼻塞などの表証を伴うこともある。舌質舌苔は不定だが苔は乾燥している。脈は浮数，細数など

【治法】 清燥潤肺

【方劑】 清燥救肺湯（『医門法律』）

桑葉・石膏・麦門冬・阿膠・胡麻仁・人參・杏仁・枇杷葉・甘草

桑葉は肺を侵す燥熱の邪を清透し，主薬である。清肺生津の石膏と養陰潤肺の麦門冬で清肺潤燥する。阿膠と胡麻仁も養陰潤肺を補助，枇杷葉と杏仁で清肺止咳の効を高める。人參は本方では補氣の目的ではなく，白虎加人參湯や麦門冬湯に配されている方意と同じく，生津止渴の目的で配合されている。

9) 大腸湿熱証

【病態】 湿熱の邪が大腸を侵した症候。夏季には湿熱の邪が脾胃・大腸を侵しやすい。また、平素脂っこい食事を好み、習慣的に飲酒していると体質素因として湿熱を産生しやすくなっている。そのような人は飲食の不節制によって容易に大腸湿熱の証を生ずる。

【症候】 腹痛、下痢、粘血便、裏急後重。あるいは突然の瀉下、穢臭がある。排便時、肛門の灼熱感を伴う。小便短赤。舌質紅苔黄膩、脈滑数。感染性の腸炎でよく見られるが、潰瘍性大腸炎などの炎症性腸疾患の急性期にも本証を呈することがある。

【治法】 清熱化湿止痢

【方剂】 白頭翁湯（『傷寒論』）

白頭翁・秦皮・黄柏・黄連

白頭翁は清熱解毒、涼血止痢の効にすぐれ、方剂名に冠されているように本方の主薬である。黄連と黄柏の清熱燥湿止痢がこれを補助し、熱痢を治める効の秦皮も清腸止痢に協力し、強力な組み合わせとなっている。

10) 伝導失司証

【病態】 何らかの原因で大腸の腑気が通じなくなり、大便秘結をきたしたものの。原因は次の状況が考えられる。燥熱により津液が傷られ、大便が潤いを失う。肝気鬱結、脾胃気滞などにより大腸の気機も鬱滞する。老年となり気血の機能が衰える、あるいは体質やなんらかの病因により気血両虚をきたし、気の不足により大腸の伝導機能が衰え、血の不足により大腸の潤いが失われる。

【症候】 大便秘結。背景となる病態によって随伴症状は様々。

【治法】 潤腸通便

【方剂】 潤腸湯（『万病回春』）

当帰・熟地黄・麻子仁・桃仁・杏仁・枳殻・厚朴・黄芩・炙甘草・大黃
養血滋陰の当帰、熟地黄に潤腸通便の麻子仁、桃仁、杏仁を配して腸燥を潤し、大黃と枳殻、厚朴で大腸の腑気を降下させ、通便を促す。黄芩は大黃の瀉熱通腑の効を助けている。

6. 肺の病証に用いる薬物

以上に紹介した方剂の組成を理解しやすいように、肺の病証に用いる薬物を作用によって分類して表5に示す。

表5 肺の病証に用いる薬物

作用	薬物
宣肺	麻黄 紫蘇葉 桔梗 薄荷 葱白
散寒	麻黄 桂枝 乾姜 細辛 羌活
清肺	黄芩 桑白皮 石膏 知母 芦根 魚腥草 金銀花
瀉肺	葶藶子 甘遂 大黄
潤肺	麦門冬 天門冬 石斛 玉竹 百合 玄参 天花粉 阿膠
降肺气	紫蘇子 杏仁 厚朴 半夏 紫苑 款冬花 旋覆花
斂肺	五味子 訶子 白果 烏梅 罌粟殼
去痰(寒痰)	半夏 陳皮 白芥子 萊菔子 紫苑 款冬花
(熱痰)	瓜蒌仁 胆南星 貝母 竹茹 芦根 冬瓜子
補肺	黄耆 人參 炙甘草 蛤蚧 紫河車
養肺	北沙参 麦門冬 百合 玉竹 山藥 黄精
清腸	白頭翁 黄芩 黄柏 秦皮 大黄
潤腸	麻子仁 瓜蒌仁 肉從蓉 当歸 杏仁

プロフィール

平馬直樹 (ひらま・なおき)



●現職

平馬医院院長，日本医科大学東洋医学科講師

●略歴

1978年 東京医科大学卒業

同 年 北里研究所附属東洋医学総合研究所医局 入局

1987年 中国中医研究院広安門医院 留学

1990年 牧田総合病院牧田中医クリニック診療部長

1996年 平馬医院副院長，後藤学園入新井クリニック漢方診療部長を兼任

現在，平馬医院院長。2005年より日本医科大学東洋医学科講師

●著書

『図解よくわかる東洋医学』共著（池田書店・2005年）

『中医学の基礎』監修（東洋学術出版社・1995年）